

《フォーラム》

「自己決定」を巡って — カタロニア・沖縄

ANC(カタロニア会議)がやって来る!

自己決定・独立を語ろう

100万人が独立求めデモンストレーション(2018.9.11 バルセロナ)

日時 2018年 **10月5日(金)** 18時半～ 参加費 500円

場所 日比谷図書文化館 小ホール 日比谷公園内 日比谷公園 1-4
☎03-3502-3340

【プログラム】

▶ カタロニアって、どんなところ

CDR Tokio (カタルーニャ・共和政防衛委員会 東京グループ)

▶ 仮想のカタロニア共和政の1年、そして次は？

Adria Alsina さん (ANC 全国書記、ヴィック・カタルーニャ中央大学教員)

▶ 琉球独立の歴史的背景、法的正当性、経済的可能性

松島泰勝さん (龍谷大学教員)

主催 フォーラム実行委員会

【呼びかけ人】 京極紀子 (ATTAC Japan 首都圏)

中岡基明 (全労協事務局長)

山下恒生 (大阪教育合同労組顧問) / 連絡先 090-5056-9246 (山下恒生)



2017年10月1日、カタロニアはスペインからの独立の是非を問う住民投票を行いました。しかし、スペイン政府は住民を警察の暴力で追い払い、投票箱を持ち去りました。それでも、投票率は4割、独立賛成は9割を占めました。

10月27日にカタロニア議会は独立宣言を行いました。これに対して、スペイン政府は、カタロニア政府および議会を解散させ、指導者たちに反逆罪・扇動罪等の容疑をかけました。住民投票を呼びかけただけで、いまだに9人が裁判なしに逮捕拘留され、プッチダモン首相たちは海外亡命を余儀なくされています。

スペイン政府はカタロニアを直接統治して、12月に議会選挙を行いました。またしても独立派が多数を占めることになりました。それでも独立を認めませんでした。この間スペインでは政変が起こり、社会労働党政権が誕生しましたが事態は変わらず、カタロニア独立は実現していません。

住民投票と独立宣言を現実のものとするため、政党・議会だけでなく市民団体なども運動を行っています。その先頭を担っているのがANC(カタロニア会議)です。バルセロナでは難民歓迎の50万人デモも組織されており、ANC議長は次のように語ります。「カタロニア人は富の公平な分配をもたらす近代的でダイナミックな経済を好んでおり、透明かつ公正な方法でスペインを含むヨーロッパの貧しい地域に貢献したい。」

平和的で民主的な独立運動はヨーロッパ各地で共感を呼んでいます。EUや加盟諸国は冷淡です。ANCは21世紀における国家からの独立の意味と、その具体化を語ることでしよう。

いま沖縄県知事選がたたかわれています。なんととっても大きな争点は、辺野古新基地建設の是非です。

沖縄には在日米軍基地の約75%が集中していますが、日本政府はここに新基地をつくらせているのです。金の力で賛成派を増やし、反対する者には本土警察の暴力で抑えつけています。

沖縄の民意ははっきりと示されていますが、日本政府はそれを認めません。また、日本本土における無関心は、沖縄を孤立させてきました。

こうしたなか、沖縄(琉球)の自己決定が現実問題となってきました。自治を拡大するのか、独立へと向かうのか。

沖縄は基地経済から脱却しており、平和な島・沖縄としてアジアに開ける展望をもっています。軍事基地を押しつけられ続けるなら、独立が正当性をもつことでしょう。

琉球独立論は、学問の世界から国連の舞台へと広がっています。フォーラムでは琉球独立について真正面からの提起が行われます。



【フォーラムの呼びかけ】

カタロニア独立の目的は「富の独占」ではありません。「地域のことは地域が決める」、この当たり前のことを実践しています。国連憲章・国際人権規約も認める自己決定権の行使です。他方、沖縄の民意はいつも無視されています。カタロニアANCを迎えて、琉球独立の提起を受けながら、21世紀の「くに」のかたちを考えるフォーラムになればよいと考えて、呼びかけました。

